

(様式1)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	理念 ○家庭的な雰囲気の中でゆったり楽しく ○なじみの環境で自由な生活 ○人として尊厳を尊重する ○出来る事探しから始めましよう の4点を掲げ日々努力しています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	毎朝スタッフ全員で唱和し、理念に基づいたケ アーが出来る様に努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・地域交流会を通じて、理念・方針を説明 し、玄関や事務所・トイレなどホーム内にさりげ なく掲示されている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物に出かけ、近隣の方々と気 軽に挨拶を交わしたり野菜を頂いたりと交流を 図っています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	地域や町内会のボランティア等の受け入れや老人 クラブにも参加し、ホーム内での家族会での交流 を図っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現実的に、当ホームの入居者の為の取り組みが一杯な状態で、地域の高齢者までの余裕がない。	○	職員一同、これから地域の高齢者に対して今後どのような取り組みが出来るのか話し合っ行ってきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み、評価に生かしている。又、外部評価をミーティングで報告し改善に向けての努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動内容の報告をし、各委員からの質問・意見・評価・要望等をいただきながら、地域にとけ込んだホームを目指すと共にサービス向上にも繋げています。	○	地域包括センターの参加も得られるとの事でより充実した会議が進められるように努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	鹿児島市からの介護相談員の派遣にて、入居者・介護職員の相談を受け、その中から事業者が情報を頂きサービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度としては知っているが、まだ利用された方は無くこれまでに 相談を受けたことはありません。	○	今後、勉強会等を開き職員の理解を深め、必要な時に支援できる体制を整えていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修やミーティングを通じ常に虐待とは何かについて学び、防止に努めている。	○	外部研修等に進んで参加し、虐待と拘束について常に学んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居前、個人及び家族との面談で十分説明を行い理解・納得して頂いており退去後のアフターケアは全職員で支援している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と1対1で話す機会を持ち、何か困っている事はないか聞く時間を持つようにしている。又、家族の面会時等に聞き取りを行い玄関にも苦情箱を置きね誰でも投函できるようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご面会時・毎月の手紙・電話・メール等で利用者の暮らしぶりや健康状態の近況報告を行っている。職員移動については、ホーム便りにてお知らせしております。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置し、面会時に積極的に声かけをしている。又、苦情相談窓口を設置し日頃から家族会等を通して気軽に相談して下さる様に話している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体ミーティングで、職員の要望・意見を聞くようにしている。又毎月、運営者と管理者は話し合いを設け、そのときに職員の意見を報告し反映させるようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況やペースに合わせたローテーションを組んでいる。又、その都度必要に応じて柔軟に職員配置を考えている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	色々な事情の中で職員の移動・退職は、致し方ない部分もあると思いますが、出来るだけ馴染みの職員にて支援できるように配慮出来ていると思います。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加・講義を聞く機会を持ち、その中から必要と思う事・職員の意見を聞きたいときは、時間わ儲け勉強会を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グープホーム連絡協議会に参加し情報交換を行い、その結果を職員に伝達しサービスの質の向上に活かしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会や有給休暇を取れるような職員配置をしており、ストレス等の軽減を図り相互理解の中で相談しやすい環境に取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修等積極的に参加してもらい、職員一人一人の目標の意識付け・資格習得に向上心を持てるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に必ず見学かお試しで宿泊して頂き、居室やホームの雰囲気等見たり感じたりして頂いている。尚現在までの生活・健康状態を聞き出来るだけ自宅にいた時と変わらない生活が出来るように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上に、家族からも話を聞き希望に添った形になるように努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況に応じて個人・家族の面談時・各関係施設の職員から十分な情報交換を行い、アセスメントも実施し必要なサービスを提供するように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族より利用者の性格・趣味等の情報を貰い、他の利用者・職員と馴染んでいけるように工夫し、徐々に自身の生活パターンが出来るように支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、人生の大先輩であると言う事を職員は常に念頭に置いて、食事やお茶の時間を利用して色々な知恵を教えて頂く機会がある。又、そういう機会を多く持てるように声かけを行っている。	
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人も家族、そのご家族も同じ家族という気持ちを持ち家族に対して本人の日々の過ごし方についても情報提供を行い、本人の精神面の安定が図れることを第一と考えています。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月【ふみの日】を決めご家族へお手紙を書かれるのに、職員も近況報告を同封すると共に面会の依頼・手紙に対しての返事等を下さるようお願いしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚・友達・地域の方に声を掛けながら、前在の関係が継続出来るように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者それぞれの個性を見極めたうえで、1人一人の出来る事・出来ない事を把握し、職員の支援が必要な事は支援しながら、利用所同士で出来る手助けについてはそれをさりげなくサポートしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去理由はそれぞれですが、病院入院のケースではその後も職員が、自発的に見舞いに訪れたりサマリーを活用し情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけと訴えの傾聴により、1人一人の意向の把握に努めています。食事・入浴・レクリエーション等色々な場面において、本人の意志を尊重し無理強いせずケアをおこなっている。	○	自分の思いを表に出せない方に於いて、その人らしい暮らしの支援を寄りいっそう考えていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話や主治医・ケアマネージャーからの情報提供により把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の意向・心身の状態・残存機能を把握し、その人らしい生活が送れるようにつとめている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成の際は、本人・家族・主治医を含む医療機関・職員と情報交換を行っている。又作成された介護計画については、本人・家族・職員等への説明と開示を行っている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間であっても、身体的・あるいは精神的に大きな変化が見られた場合には、本人・家族・医療機関・職員と話し合いを行い新たな介護計画を作成している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中夜間を通して毎日個別記録に記入し、その内容については、毎日朝夕申し送りを実施して確認している。共有した情報は、職員でケースカンファレンスを行いさらに介護計画に反映させている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や送迎・受診介助等の支援をしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や地域のボランティアとの交流・町内のいきいきクラブ等に参加させて頂いています。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、行っていません。地域の理美容に協力していただきサービスを利用したり母体が同じデイサービスを利用したりしています。	○ 入居者の暮らしの質向上・満足度を高める意味からも地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と積極的に関係を作り、情報交換や相互協力等の連携を図って行きたいと考えています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターは、まだ稼働し始めたばかりで協働作業は実施されていない。	○	今後は、地域包括センターと情報交換を行いながら、本人の意向や必要性を把握した上で、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について協働作業を進めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にし、協力病院・主治医と事業所の関係を築きながら、週1回の往診をお願いしており24時間緊急時の対応が可能な体制が出来ております。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医へ状況報告を行いながら、専門医への紹介・診察・治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの看護職員とかかりつけ医の看護職員で、日常の健康管理相談を行いながら支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	常に医療連携を図り、異常時は早期受診、早期入院し、重症化しないように努めると共に入院時は、定期的に面会し安心して過ごせるように努めている。退院に向けての情報交換や相談は、連携をとり支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や状態変化等に、本人・家族ならびに主治医と職員を交え話し合い、今後の方針を共有している。	○	面会時に現在の状況並びに今後予想される状況等を話し合い、本人・家族の気持ちを理解し共有出来るように努めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	介護度の高くなってきた利用者もいらっしゃいますが、できる限りここでお過ごし頂ける事を願っています。	○	今のところ、終末期までご利用になられた利用者はいらっしゃいませんが、医療ニーズが重要になってきた場合は職員・ご家族・かかりつけ医の連携を取り合って、よりよい終末期を迎えられるように努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の方にとって環境の変化は大きなダメージ となるので、その方の生活歴・性格などの情報提 供として介護連絡書を作成し、ご家族や他施設に お渡ししている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	入居時に必ず個人情報に関する説明・同意を頂く と同時に、常に利用者は人生の先輩であることを 心に刻み、誇りやプライバシーを傷つけないよう に心がけている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	穏やかな言葉かけやゆっくりとした態度での接し 方・利用者に合わせた声かけによって、思いや希 望を話して頂き易い環境を作ると同時に、選んで 頂く場面を作成することで納得した生活が送れる ように努力している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	入居者一人一人の性格や生活歴・体調に合せて柔 軟に対応すると同時に、希望や要望があった場合 はできるだけそえるように支援しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	日常の身だしなみ・おしゃれは、入居者の好みに 合わせて職員も一緒になって楽しく行っている。 理美容に関しては、ご家族の協力を得て行きつけ のお店を利用したり、近所の理美容室へ出かけて 希望のカットをして頂いている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	好みの味付けや食べ易い形態・使い易い食器・余 裕のある食事時間の設定を心がけており、サポ ートの必要な方の隣に座るなど工夫をして職員も一 緒に食事を摂っている。また、食事の準備から後 片付けまで、できる範囲でできる入居者に行って 頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間などに入居者へアンケートを取り、食事やおやつなどに好みを取り入れている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	排泄のパターンを把握し間隔・量・排便の兆候を見逃さないように、トイレ誘導を行い気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる状態であるが、浴槽水の汚染等を考慮して週3回(1日おき)の入浴日を設けています。本人の習慣や希望に合わせて入浴の時間帯・回数等は、流動性を持たせて支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1人一人の睡眠パターンを把握し、夜間睡眠・午睡が出来るように環境を作り、緊張や疲れをため過ぎないように予防的支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人一人の出来る事・長所・得意な事・好きな事などを見出し、その人に合った活躍の場面を毎日の暮らしの中で作り、自信を高める言葉かけや働きかけをするように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時本人・家族・ホーム側との話し合いにてお金の管理は、原則としてホーム側の立替払いになっている。お金を所持する事で安心される方には、家族と話し合い僅かではあるが所持していただいている。	○	近くのスーパーや外出時は、1人一人にお金を所持していただき、自分で買い物され支払をお願いしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外への誘導・散歩の声かけ・ベンチでのお茶タイムを設けるように支援している。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた外出を計画したり、行きたい場所のアンケートを実施し出来るだけ希望に添えるように支援しています。	○ 個別には、良く御家族がお迎えに来られドライブや食事・お墓参り等に出かけられています。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も自由に使用していただけるように声かけしています。毎月1日を(ふみの日)と決めて御家族へ手紙を書かれ近況報告をされています。	○ 家族とのコミュニケーションと認知症状に対する御理解をいただけるように、又職員もお知らせしたい事を同封して送付しています。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームの面会時間は特に設けず、いつでも気軽に訪問・面会していただけるようにしています。居室にてお茶等お出ししてゆっくりくつろげる雰囲気作りに努めています。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修会や自ホームにても身体拘束の勉強会を行い、スタッフ全員で身体拘束ゼロのホームにする事を誓っています。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事の弊害は、職員も理解しており、玄関は、常に開放し自由に外へ出られるようにしている。	○ 帰るコール等落ち着いた様子が見えるときは、玄関のセンサーを利用する事もある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通して、プライバシーにも配慮しつつ入居者の状況把握に努め、容態変化やケガ・事故も考えて見守りをしています。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全体的な危険を考えて、危険なものの除去・保管について細心の注意を払っています。その方の能力に応じて、ハサミ・裁縫箱・つめ切りの所持を認め、職員の方で保管・管理をしています。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修・ミーティング等で学び、介護日誌・朝夕の申し送りを活用して、個別対策の検討を行い事故防止に取り組んでいます。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時のマニュアルを作成しており、又主治医より入居者の症状別対応マニュアルも準備してある。心肺蘇生術とAEDの訓練も職員全員で、取り組んでいます。	○ 全職員が普通救命講習1を受講したいと考えています。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を定期的に行っている。又日々避難については、職員間で話し合い地域交流会を通して、地域の方にもお願いしている。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒・健康状態の変化、集団生活による感染の可能性を、家族会・面会時にお話しし御理解をいただき、ゆったり・楽しく生活できるように努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・食事・排泄・活気などを総合的に判断し異変を認めた場合、職員間で情報を共有し早急に主治医との連携を取り重症化を防ぐように努めている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の受診用カルテを作成し、薬の用法・用量・副作用など理解している。変更時は、内服変更帳と申し送り簿にて確認しています。	○ 投薬間違いを防ぐため、内服チェックリスト表を作成し二重のチェックにつとめています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘により不穏や混乱が、起きているように感じる事も多いので、予防の為に十分な水分・繊維性の食品・腹部マッサージ・散歩をするように心掛けている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個別的に義歯洗浄や歯磨きの見守り、介助を実施しています。	○ 定期的に訪問歯科の診察を受けられている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の摂取量をチェックし、不足時・体調不良時・嚥下状態の悪い方など、状態に応じて主治医と相談の上、代替えの物を準備して確保できるように支援しています。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルがあり、全職員で実行しています。一行為として手洗いを確実に守り、インフルエンザの予防接種・ペーパータオルの使用・流行時の予防対策など取り組んでいます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防に関して職員が良く理解しており、調理前の手洗いの励行・調理器具の清潔管理・食材管理〔週2回の買い物〕・冷蔵庫の管理を徹底しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、入居者全員で作られたその月のちぎり絵などを展示しており、親しみやすい雰囲気作りを心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窗のある開放感が感じられるホールで、心地良く過ごしていただいています。光については、カーテン・よしず等でこまめに調整しています。又、季節の花等飾り楽しんでいただいています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で一緒にくつろぎ談笑するソファや、少人数でお茶を囲めるようなテーブルの配置・和室の利用とゆっくり過ごしていただくように工夫しています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・本人と相談し使い易い配置と本人の馴染みの物を持参していただき、居心地良く暮らせるように工夫しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やホールの換気に努め、新鮮な空気を取り入れています。空調も寒暖計を参考にしながら、冷やし過ぎず・暖め過ぎず入居者の状況に応じてこまめに行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	建物内はバリアフリー設計になっており、あらゆる 場所に手すりなど設置し出来るだけ安全に自立 した生活が、送れるように工夫しています。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	入居者一人一人をより深く理解できるように努 め、その方のわかる力を把握し、自分一人でも出 来るという自信を高めてもらっている。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ホームの前・裏の畑には、季節の野菜を植え入居 者の皆様と一緒に収穫の喜びを共有しています。 又、ベランダにも椅子を置き、いつでも外気浴を したり、洗濯物を干したり取り入れをされたりす る環境です。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設してこの7月で、丸4年が過ぎようとしています。入居者の皆様もそれなりにお年を重ねてこられ、現在の平均年齢が83歳になりました。98歳～74歳という幅の広い年齢層です。おのずとお世話する時間が増えて参りました。この中でホームの理念の一つ【出来ること探しから始めよう】を常に念頭に入れ、一人一人の今出来る事を探し、それを少しでも継続できるように自立に向けて取り組んでいます。これからも職員一同ご家族と共に、入居者皆様の思いを受け止められるように心を磨いていきたいと思います。